



Newsletter No.145 2017.9.27

ronniandpopoki(at)gmail.com

<http://popoki.cruisejapan.com>



ポーポキが住む神戸では、9月になると秋が近づいてきます。ポーポキは、夏のお月さまが秋のお月さまに変わるのを見ます。みなさんのところでも、季節は変わりますか。その変化を感じるのが楽しい？あるい季節の変化を体験してみたいと思いますか？

Popoki's Hot News!



UPCOMING!

10月28日 14:00~16:00

「ポーポキと平和と健康を考えるワークショップ@兵庫医療大学」

今年もポーポキと一緒に健康と平和を考えませんか？

詳細は15頁にご参照ください。

お待ちしております！



新しい翻訳！

ポーポキの友だちがポーポキの本をインドネシア語に訳してくれました！平和って、なに色？はすでにありましたが、「ポーポキ、元気って、なに色？」(シィウィにゃん)、「ポーポキ、元気って、なに色？」(ブトリにゃん)、「ポーポキ友情物語」(レイザにゃん)が翻訳され、インドネシア語のセットができました！ありがとう！！！！



「一言の平和」コーナー

ポーポキのお友だちの**みずほにゃん**は、次の「一言の平和」を送ってくれました。

「あああああ！良いお天気だねえええ！」

あなたは今日、どんな「平和」に出会いましたか？ぜひお聞かせください。

ポーポキのメール [ronniandpopoki \(at\) gmail.com](mailto:ronniandpopoki@gmail.com) !

大阪香港台湾グローバルシチズンシップ・スタディツアー “ジェンダー”の視点から世界を捉え直そう

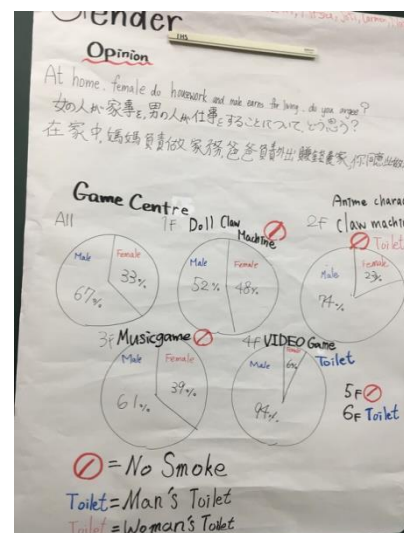
鍛冶田千文

大阪 YMCA では、大阪香港台湾グローバルシチズンシップ・スタディツアーを8月16～21日に実施いたしました。“Celebrate Differences”というテーマでの国際交流でした。香港14名、台湾5名、大阪9名の中高生が、6日間寝食共に文化・価値観の違いを実感しながらジェンダーを学びました。



3日目の六甲山 YMCA ではロニー・アレキサンダー先生と武田寿子さん（元アジア太平洋 YMCA ジェンダー委員長）を迎えワークショップをしていただきました。“Popoki, what is gender and why is it important?”の内容で、男らしさ女らしさを考え、それを体で表す、また今まで生きてきた人生を川で表し、自らのジェンダーや性について共有しました。抽象的なジェンダーは中高生には大変難しく、またこのスタディツアーが英語中心で進行している中どこまで理解が深まるか私たちも不安でした。でも、ポーポギが活躍してくれたことで参加者も興味を持ち続けていられました。

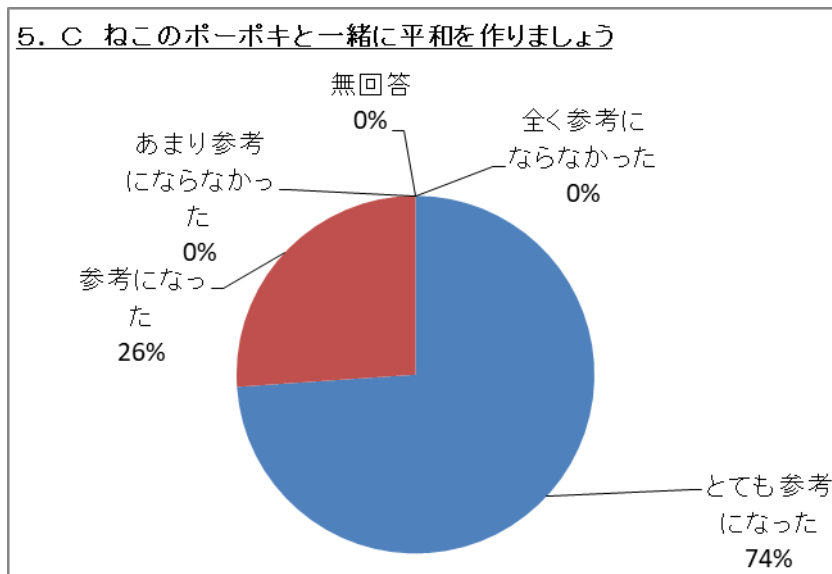
午後は六甲山 YMCA でのジェンダー発見のため、施設を歩き回りました。YMCA のキャンプリダーは圧倒的に女学生が多いこと、ボーイスカウトでは女の子も「ぼく」と発言しているそんな発見をしながら翌日のフィールドワークに備えました。翌日は難波道頓堀周辺で道ゆく人にインタビューしたり、ゲームセンターでジェンダーを発見したり。信号機の表示が男性だったことも新たな気づきでした。これらの発見や気づきは視点が新鮮で、ゲームセンターのクレーンコーナーや音楽ゲームコーナーなど選んだ場所も若者ならではの、大変興味深いものとなりました。



た。アレキサンダー先生が「正解はないから」と言ってくださっていたことを改めて得心しました。国を超えてジェンダーに触れたことはそれぞれの感性を通して、これからの人生に「何か」が残ったことを信じて。

8月7日にちょうど神戸に台風が来ていた日ですが、ポーポキは「第14回 多文化共生のための国際理解教育・開発教育セミナー」で「ねこのポーポキと一緒に平和をつくりましょう」ワークショップをさとにゃん、たいにゃん、ろにゃんで行いました。26名の参加者に大学生や学校の教師、NGO関係者と一緒にポーポキの本を読んだり、体を動かしたり、お絵かきをしたりしました。90分はあっという間に経ちました。このセミナーは毎年参加していますが、今年はタイにゃん(中3)がお手伝いに来てくれたのはとてもうれしかったです。

毎年、主催者がセミナー全体と、各ワークショップについてのアンケートをとっています。以下、ポーポキに関する部分を紹介します。喜んでいただいたようでうれしい限りです。



とても参考になった

偏見・差別がない世界・社会・地域になればいいと、切に願います。子どもたちの未来が少しでもこういうのがない未来になるように、学校で子どもたちと学んでいきたいです。ありがとうございました。

- ・とても楽しかったし、考えさせられた。自分の行動も見直していきたいと思う。
- ・人間じゃないポーポキと平和を考えることで、人としてじゃない平和にも目を向けられたと思います。
- ・楽しくて、学校でも使ってみようと思った。
- ・沢山のワークショップを体験できたので。
- ・平和や幸せについての考え方はいろいろあるけれど、少し何かを変えるだけで何かが変わるということにすごいなあと感じました。
- ・たくさんのワークをでき、よかった。「心で感じる」自分の授業にないところだと思うので、取り入れたい。
- ・すごくあたたかい空間の中、平和について考え、高校生や学校の先生と関わることができて楽しかったです。もう少し長い時間、ワークショップできるとうれしかったです。

- グループの皆と体を動かしながら参加できて良かった。
- 新たな視点で平和についてよく考えられた。
- 平和について考えるよい機会になりました。
- 平和とは？幸せとは？の違いとは何なのか？
- 身体を動かしたり、絵本を通して活動することで、主体的に考えることができた。
- ポーポキを通してのアクティビティがとても、これからの学校生活での参考になりました。

参考になった

平和の色や味・においについて考えてみます。

- 平和について考えさせられました。
- 現場で使える教材が多かったから。



写真提供:神戸 YMCA



ポーポキ@サマースクール

8月23日にポーポキはサマースクールの先生になりました！神戸大学男女共同参画推進室が大学の教職員や学生のお子さんのために大学内で二日間のサマースクールを主催し、その中でろにゃんが平和、さとにゃんが健康の授業を担当しました。ポーポキは両方を担当し、そして友だちのシウィにゃんとプトリにゃんも手伝ってくれて、17人の小学生と一緒に学びの時間を持ちました。

平和の時間ではボガをしてから、ポーポキの絵本から数ページを読んで、みんなで話しました。大きなポーポキと大きなペンギンのペンちゃんともお話ししました。後半では、お絵かきしました。テーマは、「ポーポキに平和を！」ということでした。元気を失ってしまったポーポキにどうしたらよいかをみんなで考えることにしてから、16枚の模造



紙からなる大きな紙にそれを描くことにして、最後にそれらを共有しました。みんなが協力しあって描いた絵に虹や暖かい思いがいっぱいつまっていたので、ポーポキはとてとてもうれしかった。



健康の時間は体を動かすことから始まり、そのあとは『ポーポキ、元気ってなに色』をシィウィニャンとプトリにゃんと読みました。今度は各自が自らの健康をはかるためのメジャーをつくることにしました。ある人は好きな食べ物を食べると元気だということで一番上に好きなフルーツを描いて、きらいなものを下に描きました。ある人はサッカーが好きで、トップにサッカーボールを。さとにゃんの指導の下でみんなが自分にとってどういうときが一番元気を考えたりして、時間があっという間に

経ってしまいました。

たのしいサマースクールでした。みんな、ありがとうございました！

NEW POPOKI T-SHIRTS!



サイズ: SS, S, M, L, XL
色: むらさき、パステルブルー、白、
パステルイエロー、パステルピンク
価格: ¥1500 (税込み)



先月のポーポキ通信に7月の話と8月の単語を紹介しました。今回は、8月の話と9月の単語を紹介します。

8月の単語：炊き出し、仮設トイレ、ボランティアバス

お話し（今月は少し長い。最後まで読んで、そして訳してありがとう！）

「たのしい！」笑顔（えがお）のポーポキは、非難所（ひなんしょ）の外（そと）でボランティアバスにのってきたお姉（ねえ）ちゃんと絵描（えかき）きやボール遊（あそ）びをしていました。

「もうすぐごはんですよ！」と、ボランティアのお兄（にい）さんが知（し）らせにきました。

「おなかが空（す）いた！しかも外（そと）で作（つく）ったりするんだね。避難生活（ひなんせいかつ）はたのしい！」ポーポキはそう思（おも）いながら、たきだしの長（なが）い列（れつ）になりました。5分（ふん）、15分（ふん）、30分（ふん）。ポーポキは、いらいらしはじめました。

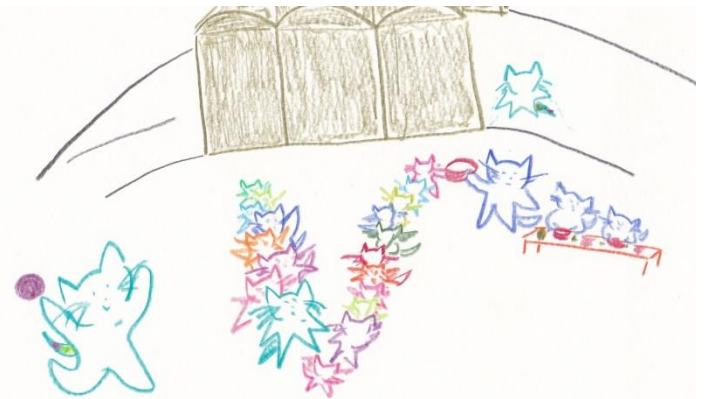
やっと食（た）べて、落（お）ち着（つ）いてきたポーポキは、「トイレにいつてきま〜す」と言（い）って、非難所（ひなん

しょ）の裏側（うらがわ）に並（なら）んでいる仮設（かせつ）トイレに向（む）かいました。

「くらい！それなに？モンスター！？！」ポーポキは、暗闇（くらやみ）の中（なか）で仮設（かせつ）トイレの前（まえ）に立（た）っていました。でも、入（はい）ろうとしません。「こわい！どうしよう！？！」ポーポキは泣（な）きはめました。

ボランティアバスのお兄（にい）ちゃんは、泣（な）いているポーポキをみつけて、かけつけてくれました。「大丈夫（だいじょうぶ）だよ、ポーポキ。」懐中電灯（かいちゅうでんとう）をてけて、トイレ照（て）らしてくれました。「ほら、モンスターはいないでしょう！」

トイレを終（お）えたポーポキは、無事（ぶじ）にみんなのところへもどりました。「非難生活（ひなん生活）はたのしいと思（おも）っていましたけれど、はやくうちに帰（かえ）りたいね。」



English: The words for August were: *takedashi*, temporary toilet, volunteer bus

Story (This month is a bit long; thanks for reading and translating!)

"This is fun!" Popoki was grinning as he drew and played ball outside the evacuation center with a young woman who had come on a volunteer bus.

A young volunteer came over and told them, "The food is just about ready!"

"I'm hungry! And they make the food and we eat it outside! I like this evacuation center lifestyle!" thought Popoki as he joined the long line for the *takidashi*. 5 minutes... 15 minutes... 30 minutes.... Popoki began to get upset.

Popoki finally ate his meal and calmed down. "I'm going to the toilet," he announced and headed off to the line of temporary toilets behind the evacuation center.

"It's dark! What's that?! A monster?!?" Popoki stood in the dark in front of the toilet, but didn't go inside. "I'm scared! What should I do?" Popoki began to cry.

A young man from the volunteer bus saw Popoki crying and ran over to him. "It's OK, Popoki." He took out a flashlight and lit up the toilet. "See, no monsters!"

Popoki finished with the toilet and safely returned to where everyone was gathered. "I thought life in the evacuation center was fun, but I want to go home soon!"

翻訳

Siwinyan, Bahasa Indonesia

Takedashi, toilet portabel, bis relawan

"Ini sangat menyenangkan!" Popoki tersenyum saat dia menggambar dan bermain bola di luar pusat evakuasi dengan seorang wanita muda yang datang dengan bis relawan.

Seorang relawan muda mendatangi mereka dan berkata "makanan akan segera siap!"

"aku lapar! mereka menyediakan makanan dan kita bisa menikmatinya diluar! Aku suka gaya hidup di pusat evakuasi ini!" pikir Popoki saat dia bergabung antrian panjang untuk takidashi. 5 menit....15 menit...30 menit...Popoki mulai gelisah.

Popoki akhirnya mulai makan dan tenang. "aku ke toilet dulu", dia berkata dan menuju ke antrian toilet portabel di belakang pusat evakuasi.

"Gelap sekali! Apa itu?! Monster?!?" Popoki berdiri dalam gelap di depan toilet, tetapi tidak masuk ke dalam. "Aku takut! Apa yang harus aku lakukan?" Popoki mulai menangis.

Seorang pria muda dari bis relawan melihat Popoki menangis dan segera berlari mendekat. "Tidak apa apa Popoki" Ia mengeluarkan senter dan menerangi toilet. "Lihat, tidak ada monster!"

Popoki selesai dari toilet dan kembali ke tempat semua orang berkumpul dengan selamat. "tadinya aku pikir hidup di pusat evakuasi menyenangkan, tapi aku ingin segera pulang!"

Lőic, French version:

« C'est amusant ! » Popoki souriait en dessinant et en jouant au ballon à l'extérieur du centre d'évacuation avec une jeune femme venue grâce à un bus de volontaires.

Un jeune volontaire vient vers eux et leur dit, « La nourriture est pratiquement prête ! »

« J'ai faim ! En plus ils font la cuisine et on mange à l'extérieur ! J'aime le mode de vie dans ce centre d'évacuation ! » pensa Popoki en rejoignant la longue file d'attente pour le repas. 5 minutes ... 15 minutes ... 30 minutes ... Popoki commença à être contrarié.

Popoki mangea finalement son repas et se calma. « Je vais aux toilettes » annonça-t-il en se dirigeant vers les toilettes temporaires derrière le centre d'évacuation.

« Il fait noir ! C'est quoi ça !?! Un monstre ?! ? » Popoki resta dans le noir devant les toilettes, mais il n'y entra pas. « J'ai peur ! Que dois-je faire ? » Popoki commença à pleurer.

Un jeune homme du bus de volontaires vu Popoki pleurer et il courra vers lui. « Tout va bien, Popoki ».

Il sorti une lampe de poche et il éclaira les toilettes. « Tu vois, il n'y a pas de monstres ! ».

Popoki termina avec les toilettes et il retourna en sécurité où tout le monde était rassemblé. « Je pensais que la vie dans un centre d'évacuation était amusante, mais je veux vite rentrer chez moi ! »

新しいお話し！

Lóic Bret より: French (オリジナル)

Popoki et grand-mère Koala visite la tour du port de Kobe :

Popoki : « Est-ce que c'est un refuge ? »

Grand-mère Koala : « Non, c'est trop dangereux s'il y a un tremblement de terre ou un ouragan. »

Popoki : « Pourquoi ?! Tu m'avais dit que les lieux sûrs étaient en hauteur. »

Grand-mère Koala : « Bien évidemment, mais il n'y pas de toilettes temporaires et on ne peut pas cuisiner de repas pour les réfugiés. S'il y a une catastrophe naturelle, nous grimperons la montagne. »

Popoki : « Je veux rester ici... C'est mon endroit préféré dans Kobe. Je peux voir le musée maritime, l'île portuaire et l'aéroport. Est-ce qu'il y a quelque chose comme ça sur ta montagne ? »

Grand-mère Koala : « Ça dépend. Aimes-tu les fleurs ? »

Popoki : « J'adore les fleurs ! »

Grand-mère Koala : « Ok ! Allons-y Popoki. Nous allons prendre le télésiège. »

Popoki : « Un télésiège ? C'est possible durant une catastrophe naturelle ? »

Grand-mère Koala : « Non. Durant une catastrophe naturelle, nous trouverons un bus de volontaires. »

Popoki : « Un télésiège et un bus ?! J'adore cette ville ! »

日本語

ポーポキとコアラばあちゃんは神戸のポートタワーを訪れています。

ポーポキ:これは避難所？

ばあちゃん:いいえ。地震や台風があつたら危ないからね。

ポーポキ:なんで！？高いところが安全だと言ったじゃないか！

ばあちゃん:もちろん、けどトイレがないし、炊き出しができない。災害があつたら、山に登りましょう。

ポーポキ:ぼくはここに残りたい！…神戸の一番好きな場所だし。海洋博物館やポートアイランド、神戸空港、いろいろなところが見える。あなたがいう「山」にそのようなところはある？

ばあちゃん:そうだね。花は好き？

ポーポキ:ぼく、花が大好き！

ばあちゃん:すばらしいハーブ園があるよ。そこに避難所もあるかもしれないね。

ポーポキ:山の上にガーデン？行きたい！

ばあちゃん:では、行きましょう！ロープウェイに乗りましょう。

ポーポキ:ロープウェイ？災害のときにできる？

ばあちゃん:災害のときは、ボランティアバスを探す。

ポーポキ:ロープウェイもバスもある神戸が大好き！

Lóic Brett: English:

Popoki and Grandma Koala are visiting the Kobe Port Tower:

Popoki: "Is it a shelter?"

Grandma: "No, it's too dangerous if there is an earthquake or a typhoon."

Popoki: "Why?! You said the safe places are on the high place!"

Grandma: "Of course, but there is no temporary toilet and we can't cook a takedashi. If there is a disaster, we will climb the mountain."

Popoki: "I want to stay here... It's my favorite place in Kobe. I can see the Maritime Museum, Port Island and the airport. Is there something like that on your mountain?"

Grandma Koala: "It depends. Do you like flowers?"

Popoki: "I love flowers!"

Grandma Koala: "There is a wonderful herb garden. Maybe we will find a shelter too!"

Popoki: "A garden on the mountain?! I want to visit it!"

Grandma: "Okay! Let's go Popoki. We are going to take the ropeway."

Popoki: "A ropeway? Is it possible during a disaster?"

Grandma Koala: "No. During a disaster, we will find a volunteer bus."

Popoki: "A ropeway and a bus?! I love this city!"

9 月のはなしは 10 月号のポーポキ通信に掲載する予定です。

9 月第一週目:被災者(ひさいしゃ)

ポーポキは、おうちが壊(こわ)れたり、身内(みうち)が亡(な)くなったり大(おお)けがしたりした人(ひと)は「被災者(ひさいしゃ)」と呼(よ)ばれることがわかるけれど、被害(ひがい)の程度(ていど)はいわれないとわからないので、だれを「被災者(ひさいしゃ)」と呼(よ)んでいいかはわからない。

English: Disaster-affected person (Hisaisha)

Popoki knows that those whose homes have been damaged, have lost close relatives or who have been seriously injured are called 'disaster affected people (cats)' or hisaisha, but since it is hard to know the extent of a person's damage unless they talk about it, he doesn't know who should be called 'hisaisha'.



Putrinyan: Basa Jawa (Javanese): Senadyan Popoki ngerti yen sing dho omahe rusak, kelangan sanak-sedulur, tatu parah diarani wong (kucing) sing nandang kacilakan utawa hisaisha, nanging karang angel ngukur anggone cilaka kajaba wong kasebut crita, dheweke ora ngerti sapa sing pantes diarani hisaisha.

Siwinyan: Bahasa Indonesia: Popoki tahu bahwa mereka yang rumahnya rusak juga kehilangan kerabat dekat bahkan terluka disebut "orang-orang (kucing) terdampak bencana" atau 'hisaisha', tetapi jika seseorang tidak mau membicarakan permasalahannya, sulit untuk mengetahui seberapa besar permasalahan seseorang dan Popoki tidak tahu siapa saja yang bisa disebut 'hisaisha'.

Loïc Bret French version: « Popoki sait que ceux dont les maisons ont été endommagées ont perdu des vêtements ou ont été sérieusement blessés ; ils sont appelés « les personnes affectées » ou hisaisha. Mais comme il est compliqué de savoir le nombre de personnes concernées à moins de parler avec eux, il ne sait pas qui devrait être appelé « hisaisha ». »

9/11

9 月第二週目：仮説住宅

ポーポキの避難所は学校なので、仮説住宅ができて、お家を失った人が引っ越しをすると、授業を始められるね。

English: Temporary housing

Popoki's evacuation center is in a school, so when temporary housing is erected and people move into it, classes can begin again.

Lóic Bret: French version: "hébergement temporaire"

"Le centre d'évacuation de Popoki est dans une école. Ainsi, quand les hébergements temporaires auront été construits et que les personnes y auront emménagé, les cours pourront reprendre."

Siwinyan: Bahasa Indonesia: Minggu kedua bulan September: Hunian sementara

Pusat evakuasi Popoki ada di sekolah, jadi saat hunian sementara sudah dibangun dan orang-orang pindah kesana, kelas dapat dimulai lagi.



Sok Say: Khmer version: ជម្រក ក្នុង បណ្តុះ អាសន្ន

មណ្ឌល ជម្រក សម្រាប់ បង្គុំ ក្នុង គឺ នៅក្នុង ឯទី ផ្ទាល់លម្អយ។ ក្រោយ ពេលដែល លជម្រក ក្នុង បណ្តុះអាសន្ន

ត្រូវ វាបាន តម្លើង ឯទី ចរាស់ និ ឯមនុ ស្ស្យាន ចូលមកនៅ ថ្នាក់ ជុំ នីតិ ឯដំណើរ ការ ជាធម្មតា ។

9/18 心（こころ）のケア

被災（ひさい）して避難生活（ひなんせいかつ）が続（つづ）くと、色々（いろいろ）な疲（つか）

れがたまってくるので、心（こころ）のケアのボランティアが沢山（たくさん）いると良（い）いね。

English version: Mental health care

When people experience disasters, stay in shelters and are unable to return home, they begin to feel tired both physically and mentally, so it is good if there are a lot of mental health care volunteers to help them.

Putrinyan: Javanese! (Basa Jawa)

Kesehatan Jiwo

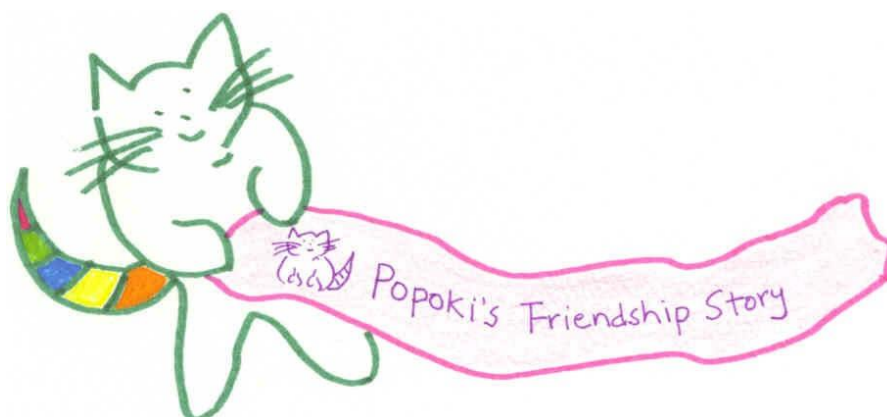
Nalika ngalami kacilakan, amarga kesuwen manggon ing papan perlindungan lan ora bisa mulih, liyane lara neng awak wong - wong banjur wiwit ngrasakke lara pikiran, mulane luwih becik menawa ana akeh sukarelawan kesehatan jiwa kanggo mbantu wong - wong kasebut.



Lóic: French version : "santé mentale"

or "santé psychologique"

"Quand les gens vivent une catastrophe naturelle, ils restent dans des refuges et sont incapables de retourner chez eux; ils commencent à se sentir fatigués physiquement et psychologiquement, donc c'est une bonne chose s'il y a de nombreux volontaires chargés de prendre soin de leur santé psychologique"





Popoki's Interview

大槌町の人々との短い会話

プトリにゃん

はじめに、私たちは、何を話すべきか、ぎこちなさを感じることはありました。とくに、私のつたない日本語だと。でも、お絵描きについて、みんながよろこんで私たちと交流しました。

‘じゃあ、お絵かきを・・・しませんか’

おばあちゃん（80歳代）

彼女は、息子の嫁と一緒にきました。80歳代で認知症です。しかし、彼女がインドネシアにいった記憶はある。彼女は、インドネシアに滞在していたときの海や、案内してくれたインドネシア人の女性について特に言及していた。楽しそうに話す。人生について楽観的な人だと感じた。そして、なんてったって彼女は、蛇が好きなんだ！！



中学生の女の子

彼女は、放課後友達とともにやってきた。彼女らは、私たちの活動について、興味をもっていたようだ。しばらく話していると、その日の学校で行った活動について訪ねた。彼女、スケジュールが忙しく疲れる、でも、大学まで行きたいと答えた。それから私は、津波が直撃したときにどうしていたかを聞いてみた。彼女は、そのとき学校にいて、学校は高台にあり津波から逃れられたそう。でも、彼女は学校が燃えているところもみている。彼女は、流暢な英語で話した。布の上においてあったアンパンマン人形を描きながらおしゃべりした。アンパンマンは、日本の誰もが大好きで、大槌の人もそうだった。

おとみ (5 歳)

彼女は、母と姉を連れてやってきた。彼女は、何を書こうか迷っていた。なので、私は、自分の手で書いてみようよと問うと、彼女は、同意してくれた (赤い丸で)。彼女は、とても寡黙で私を凝視していた。反対に、姉はおしゃべりだった。妹は戸惑っていたので、私は描き続けるように励ました。私は、ネイルアートを追加したが、彼女は残念な顔をした。私はばつが悪くなりおとみ に何度も何度も謝った。この教訓から、私は翌日から失敗を繰り返さないようにした。これは単なる写真でなく、あなた達の感情を届けるための手段であり、所有者の特権だ。私たちはそれらを邪魔できないだろう。



伊藤さん

彼女は、中学生時代に写真を取り始めて以来、写真愛好家だ。はじめは、弟を被写体にしていて、それからカメラを肌身離さず持ち歩いている。彼女は、普段の近所の写真を取っていたが、これらの風景は消えるとは思えもしなかった。津波が押し寄せたとき、彼女は人の流れに付き従い、高台

まで行った。また、彼女は、街が水に飲まれていく様子をなんとか記録し、その破壊を記録した。彼女の作品は、有名になり、海外にまで展覧会が開催されるようになった。本当のところは、彼女は宣伝しなかったわけではなく、災害によって儲けなかったわけではない。ありのままを記録したかっただけなのだ。これが現実起こったことなのだと、世界中に知ってほしいと願っている。また、震災後、主要メディアのニュースに福島第一原発事故のニュースしかのらなかったことを伊藤さんから聞いて、悲しいことだと思った。伊藤さんは、インドネシアが美しい国だと聞き、写真を撮りに行きたいと言った。私は、彼女の素晴らしい将来と夢が実現することを心から願っている。

ひなたちゃん (4 歳)

ひなたちゃんの好きな漫画キャラはドラえもん。彼女は、ドラえもんが大きなポケットを持ち、多くの奇跡を叶えてくれることを教えてくれた。絵には自身が無いようで、お母さんに励まされて、描き終わることができた。



ポーポキちゃんの簡単ポガ教室

Lesson 112

今月のテーマは、大きくストレッチ！



1. まず、いつものように、美しく座りましょう。
 2. では、立って、足を肩幅に開きましょう。両手を頭の上にあげて、横へストレッチ。反対側にもストレッチ！
 3. 次は、体重を左足にかけながら右足を右へ開く。再び上体を右のほうへストレッチ。反対側へどうぞ。しっぽを忘れずにね。
 4. 最後に足を元に戻して、体で大きな円を描く。反対側へも。
 5. できてもできなくてもがんばりましたね。では、「できたポーズ」をどうぞ！
- お疲れ様でした。少しリラックスできましたか？毎日、深呼吸・笑・リラックス、そしてポガを最低3分間練習しましょうね。

一緒にいかが？



次回のポ一会：10月 28日 16:30～ 兵庫医療大学 WSのあと！

- 9.26 ポーポキ@アフリカからのJICA研修生のための防災セミナー！
- 10.28 「平和と健康ワークショップ」@兵庫医療大学（15ページをご参照）。
- 11.2～4 ポーポキ、ろにゃん、さとにゃん@大槌町
- 12月 ポ一年会
- 2018. 2 ポーポキと友だち@大槌町
-

ポーポキの友だちから

新しい絵本：中條聖子著、ロニー・アレキサンダー訳『森のかんづめ』（日英版）エピック 2017年

ポーポキピースネットワーク

第7回ワークショップ 「健康って、なに色？」

Workshop: "What color is Health?" @ Hyogo University of Health Sciences

あなたも 平和のねこと一緒に
健康と平和について
感じたり、考えたりしませんか？



平和って何だろう？健康って何だろう？

普段何気なく聞いたり見たり感じたりしていること。

ねこのポーポキと一緒に平和や健康の観点から暮らしを見直してみませんか？

あなたの健康の指標は、なに色？みんなで一緒に考えてみよう！！

スケジュール Program

- 
- 13:30 受付 Registration
 - 14:00 「ポガ」タイム Poga ※ポガ：ポーポキのヨガ
 - 14:05 ワークショップ①「ポーポキ、健康って、なに色？」
Workshop 1: Popoki, what color is health?
 - 14:30 散策して平和と健康、安全・安心を探そう *雨天は室内で決行
Walk outside and look for peace and health, safety and relief. *It will be held indoors if rainy
 - 15:10 ワークショップ②「あなたの健康の指標は、なに色？」
Workshop 2: What color indicates your own health?
 - 15:50 まとめ、発表 Conclusion, presentations
 - 16:00 解散 Dismissal

日時 2017年10月28日（土曜日）

14:00～16:00

場所 兵庫医療大学 地域連携実践センター

対象 どなたでも参加できます。Open to all

定員 30名 30 participants

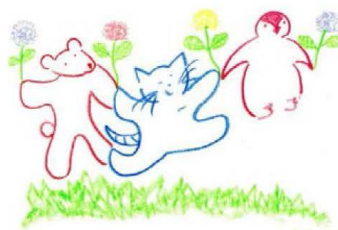
会費 100円

申込方法 FAX（裏面）にてお申し込み下さい。Registration: Fax (see the reverse side)

問合せ先 兵庫医療大学 地域連携実践ステーション

電話 078-304-3013（受付時間：平日9時～17時）

担当者 兵庫医療大学薬学部 桂木聡子 For information contact Satonyan



兵庫医療大学
社会学連携推進機構

Popoki in Print

ポーポキ通信のバックナンバー：<http://popoki.cruisejapan.com/archives.html>

- 「ポーポキのミニ平和映画祭」「こくしのまど 52」『神戸青年・Kobe YMCA News』No.652 2017.7-8
- ESD Digital Archives, Kansai Council of Organizations for International Exchange
<http://www.interpeople.or.jp>
- 関西国際交流団体協議会の「デジタルアーカイブ(WEB版の事例集)にポーポキ！」<http://www.interpeople.or.jp>
- 『平和を考える絵本出版 被災者支援きっかけに』『神戸新聞』(貝原加奈 2014.4.25 28面)
- 「ボランティア 37 団体に助成 大和証券福祉財団」『神戸新聞』(2013.8.23 朝刊 地域経済 8面)
- 「原爆の熱線で焼き付いたー “人影”再現、非核誓う」『神戸新聞』(2013.8.7 朝刊 22面)
- 「被災 秘めた思い描いて」「ひとと抄」『読売新聞』(2013.2.16 夕刊 4面)
- 広岩近広 『安全』『安心』の社会は足元から」、ロニー・アレキサンダーインタビュー 『毎日新聞』
2012.10.29 (「今、平和を語る」、夕刊、1面)
- R. Alexander. “Remembering Hiroshima: Bio-Politics, Popoki and Sensual Expressions of War.”
International Feminist Journal of Politics. Vol.14:2:202-222, June 2012
- 「ポーポキと一緒に作り出す平和の根底に 9 条がある」NO : 66 2012 年 5 月 12 日[子どもと守る9条の会]
- 「布に希望 60 メートル」阿久沢悦子 『朝日新聞』 2012.1.21 (兵庫・29面)
- 「平和祈る声まとめ本に」斎藤雅志 『神戸新聞』 2012.1.19 (伝える 1・17 3・11、22面)
- K. Wada. “Conversations with Ronni Alexander: The Popoki Peace Project; Popoki, What Color is Peace? Popoki, What Color is Friendship?” *International Feminist Journal of Politics* Vol.13, No.2, 2011, 257-263
- S. McLaren. “The Art of Healing” (Popoki Friendship Story Project) *Kansai Scene*. Issue 133, June 2011, p.10. kansaiscene.com
- R. Alexander. (2010) “The Popoki Peace Project: Creating New Spaces for Peace in Demenchonok, E., ed. *Philosophy after Hiroshima*. Cambridge Scholars Publishing, pp.399-418
- 「省窓」『神戸青年』 No.606 2011.1.2 p.1
- No.1 『「ポーポキ、平和って、なに色？」の背後にあるもの」(連載) とさぼりライフ第 19 号 2010.10:4
- 堀越健志「シリーズ:こくさいのまで⑮(パレスチナについて)『神戸青年』 No.604 2010.9-10
- 「みんなでやれば、何にかが変わる！」 THE YMCA No.607 June 2010, p.1
- [ヒロシマと世界: 被爆地の声 非核と平和、復興と再生、許しと命の尊厳訴え]
http://www.hiroshimapeacemedia.jp/mediacenter/article.php?story=20100312140608602_ja
- 2010.3.15 中国新聞 ヒロシマ平和メディアセンター
- FM COCOLO 76.5 ‘Heart Lines’ 2010.1.9 Interview: Ronni on Popoki in Palestine
- “Human Rights, Popoki and Bare Life.” *In Factis Pax Journal of Peace Education and Social Justice* Vol.3, No.1, 2009, pp.46-63 (<http://www.infactispax.org/journal/>)
- 西出郁代 「ポーポキ、平和って、なに色？ロニー・アレキサンダーを迎えて」『PPSEAWA』(日本汎太平洋東南アジア婦人協会) No.63 2009.12, p.5.
- 「友情」第 2 号 2009.11 伊丹市国際・平和交流協会 年間事業報告 pp.1-2
- 「ともに・・・」 No.29 2010.1 家庭と保育所、学校園、地域を結ぶ在日外国人教育情報誌 ポーポキ・ピース・チャレンジ情報 p.12
- 区民情報誌「なだ」 2009.12, p.2. ポーポキ・ピース・チャレンジ情報。
- 「『ポーポキ、友情って、なに色？』」「私のいち押し」奥田光子 THE GAIDAI 2009.7.17 No.243 (関西外大通信)
- 「友情って・・・考える絵本」朝日新聞「生活」(阿久沢悦子) 2009.7.2
- 「友情を考えて人間と、ねこと、そして自分と〜」れ組通信 RST/ALN 2009.6.28 No. 259, p.11
- 「カティング・エッジ」第 35 号 2009.6 (北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」)「新刊紹介:『ポーポキ、友情って、なに色？ポーポキのピース・ブック 2』(レベッカ・ジェニソン) p.3
- 「猫を通して平和を考える 絵本の第 2 弾を出版」(斎藤雅志) 神戸新聞 2009.4.21
- 「ポーポキ、平和ってなに色？」KOBE YMCA NEWS「神戸青年」2009.3.1 No.593 p.2
- 「ポーポキ、ゴミってなに色？」KOBE YMCA NEWS「神戸青年」2009.1.1 No. 592 p.2
- 「友だちになつてくれませんか？」RST/ALN 2009.2.22
- ラジオ番組の中のポーポキ！！プロジェクト・メンバーの宇留賀佳代子さんがラジオ番組で紹介してくださいました。ぜひお聞きくださいね。 <http://www.kizzna.fm/> 録音番組。(リンクは現在無効)
- やさしいから人なんです展パート20 実行委員会『世界人権宣言』ひょうご部落解放・人権研究所 2008. 10 500 円。詳しくは: blrhyg@osk3.3web.ne.jp
- 「KFAW カレッジ ロニー・アレキサンダー氏 講演会」エイジアン・ブリーズ/Asian Breeze No.54 October 2008, p.8 (アジア女性交流・研究フォーラム)
- 「ピースセミナー in 熊本 あなたにとっての「平和」とは？」Kumamoto YMCA News 10; Vol.437 October 2008, p.1
- 神戸新聞「人権宣言 兵庫から発信 全 30 条 イラストで表現 地元ゆかり 6 名がパネル制作」2008.10.8. 10





わたしにとってのポーポキ

まこにゃん

わたしは沖縄がすきです。半年に一度は行くくらいに好きです。広い空、碧い海、おいしいごはん、気さくで優しいひとたち。わたしはそんな沖縄が好きです。でも、沖縄を訪れる理由はそれだけではありません。沖縄であった戦争を知りたいからです。沖縄戦の時、初めて米軍が攻撃を行った慶良間諸島というところに通っています。座間味島では集団自決がありました。座間味島の海はとても美しいのに、73年前黒い戦艦で埋め尽くされ、島では沢山の人が亡くなったと思うと、その美しささえ残酷に映ります。85歳を超えるおじいやおばあが戦争の話をしてくれます。戦争の話を聞くと、「戦争を知らないわたしは何ができるだろう？彼らの体験や平和への想いを紡ぐにはどうしたらいいだろう？」と考えます。戦争の話を聞いている時、わたしの心は平和ではありません。むしろ、心が痛いと言っています。でも、戦争があったことが忘れられてしまっはいけません。世界が平和になって欲しいから、戦争で悲しむひとをなくしたいから、戦争について知ります。そんな願いと痛みの間にこの言葉を思い出します。

「戦争の恐ろしさを知らぬ私に 私は問う
気が重い 一層 戦争のことは風に流してしまいたい
しかし忘れてはならぬ 彼女の記憶を 戦争の惨めさを
伝えねばならぬ 彼女の哀しさを 平和の尊さを」

2015年の沖縄慰霊の日当時高校生だった知念捷さんが詠んだ平和の詩の一部です。



戦争がないことが平和？心が痛かったら知らなくてもいい？平和のために私はなにができるだろう？ポーポキの活動ではいろんな角度から「平和」を考えることができます。特に戦争に関心があった私に、ポーポキは他のたくさんのヒントをくれます。

さらにご協力ください！



ポーポキ・ピース・プロジェクトは、『ポーポキ、平和って、なに色？ポーポキのピース・ブック1』（エピック、2007年）、『ポーポキ、友情って、なに色？ポーポキのピース・ブック2』（エピック、2009年）、『ポーポキ、元気って、なに色？ポーポキのピース・ブック3』を題材に、全身で平和の意味を探り、一人ひとりの「発見」を平和の創造に役立てようとする小さな平和活動団体です。また、2011年に起こった東日本大震災をきっかけに活動しており、『ポーポキ友情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅』という本を2012年1月に発行しました。2006年に設立されて以来、日本国内外で幅広く平和のためのワークショップなどの開催を続けてきました。活動の資金はすべて本の売上や寄付によって行っています。

これからも平和を考えるためのピース・ワークショップ、読み聞かせ、ピースキャンプ参加、ポーポキのピース・ブックの翻訳（『ピース・ブック1』は既に10カ国語に翻訳されている）、『ポーポキのピース・ブック3』の執筆などの活動を中心に活動が続ける予定です。定期例会「ポー会」を月に一度のペースで開催しています。一緒に活動なされたい方はぜひご参加ください。（ポー会の開催については、ポーポキ通信の「一緒にどうぞ」の欄をご参照されたい。）

また、こういった活動に対してのご協力、ご支援をぜひお願いしたいと存じます。本の購入・寄付・本についてのコメント、感想、注文などについては、popokipeace@gmail.comへお問い合わせください。

なお、本についての問い合わせや注文は、お近くの書店、アマゾン、あるいはエピック（TEL: 078-241-7561・FAX: 078-241-1918）へどうぞ。

ポーポキ・ピース・プロジェクト [popokipeace\(at\)gmail.com](mailto:popokipeace(at)gmail.com)



<http://popoki.cruisejapan.com>

郵便振替口座番号 00920-4-280350

ゆうちょ銀行 店番099 店名099店 当座 口座番号0280350

口座名 ポーポキ・ピース・プロジェクト神戸

ポーポキ平和募金は一円 1500円 何円でも結構です。



THANK YOU FROM POPOKI!!